

# 2020 年度 第4回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議

## (なにわ ECO スクエア) 開催報告

日 時：2021年 3月18日 (木) 10～12 時

参加者：参加者 23名 (分科会進行役含)

### 参加者提案意見 (第3回) 「生物多様性の恵みを感じるまち 大阪2050に向けて」事務局より発表

- ① 海辺の自然スポット、残された自然環境の貴重さについて、南海電鉄沿線の方への周知とか観察会の共催など
- ② 生物調査結果の共有、多様性戦略など環境行政への反映
- ③ 鶴見緑地で、子ども達や若者との色々な自然体験活動や学習会
- ④ 都心・住宅地を問わず、歴史や現代社会に紐づけた自然教室の開催
- ⑤ 日々食べている食材について、生物学的な情報や、それにかかわる生物、食材としての歴史などの情報発信
- ⑥ 積水ハウスによる、公園管理や学校の校庭管理担当者へのレクチャー

### 5つの分科会で取り組みについてディスカッション

第4回は、5つのテーマで来年度からの取り組みについて意見を交わし、途中経過報告を挟みながら1時間かけて具体的な行動について話し合った。

- ① 企業が創る多様な主体のネットワーク (大和ハウス工業 西部洋晴)
- ② 高校教員との連携、リーダー育成 (ネイチャーおおさか 木村進)
- ③ 環境教育プログラムを利用した身近な自然体験 (ネイチャーおおさか 田中広樹)
- ④ 行政への情報蓄積に向けた社会教育施設の活かし方 (環境科学研究センター 秋田耕佑)
- ⑤ 日々の暮らしに生物多様性の恵みを取り込むアイデア (大阪市エコボランティア 苗田京子)

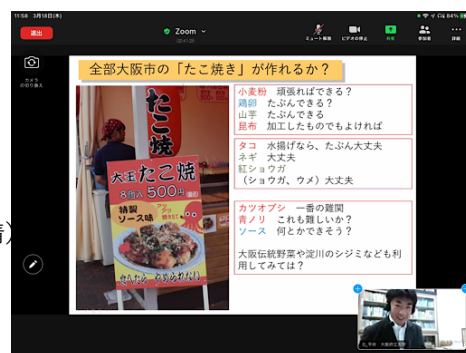
※ ( ) は議題提起者かつ進行役

※分科会③は参加人数不足のため後半に閉鎖した。

有名な施設の集客効果を活かし、自然体験プログラム等を実施しながら情報共有する (分科会①) や、SNSを利用し多くの人の目で種を同定してデータ精度を上げる (分科会④) などの提案が出された。

### 講演「生物多様性の恵みを感じるまち大阪の将来像」大阪府立大学 平井規央教授

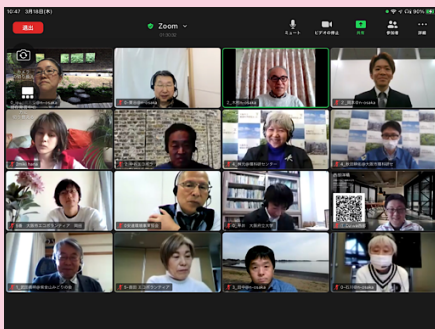
大阪市版レッドリストの作成や、万博までに大阪



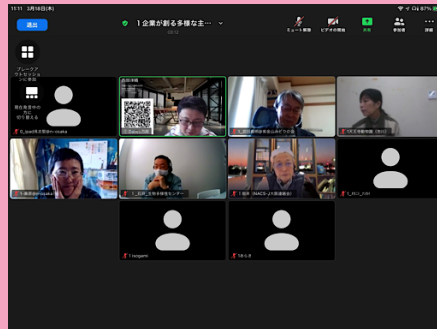
市産100%のたこ焼きを目指すなど、各分科会テーマに沿った先進的事例の紹介や大阪ならではの取り組みを提案いただいた。

参加団体：大阪市エコボランティア、日本野鳥の会大阪支部、大阪自然環境保全協会、大阪城公園たぬきの会、なにわエコ会議、大阪自然環境保全協会、会社員、天王寺動物園、紫金山みどりの会、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所、NACS-J自然観察指導員大阪連絡会・東京連絡会、日本自然保護協会

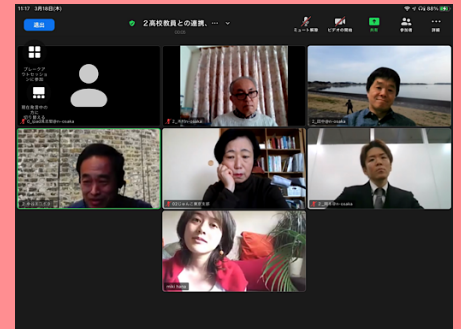
### 分科会のディスカッション内容について全体報告



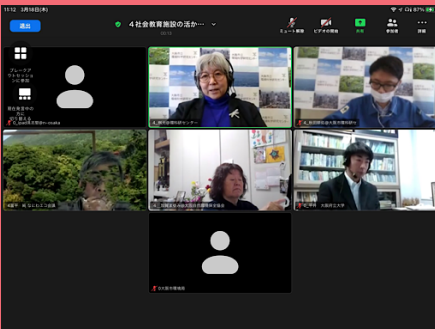
### 分科会① 企業が創る多様な主体のネットワーク



### 分科会② 高校教員との連携、リーダー育成



### 分科会④ 行政への情報蓄積に向けた社会教育施設の活かし方



### 分科会⑤ 日々の暮らしに生物多様性の恵みを取り込むアイデア



### 「大阪の自然はなくなってよい」という意見が増えている現状について全体報告

